

茨城県内の職場における熱中症発生状況 (休業4日以上 の労働災害:平成28年～令和7年)

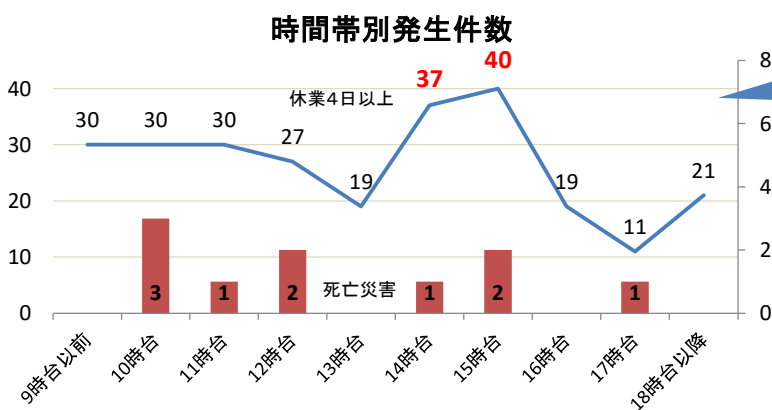
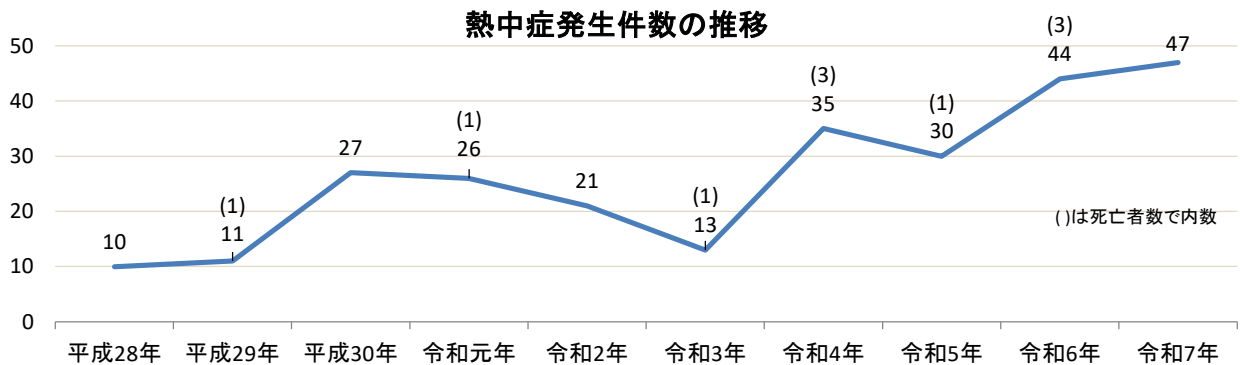
		平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	計
発生件数		10	(1) 11	27	(1) 26	21	(1) 13	(3) 35	(1) 30	(3) 44	47	(10) 264
年齢別	～19歳		1	2					1		1	5
	20～29歳	3	3	2	3	2	1	(1) 8	(1) 4	7	11	(2) 44
	30～39歳		3	5	4	5	2		2	7	6	36
	40～49歳	3	1	4	4	8	4	10	6	(2) 15	7	(2) 62
	50～59歳	2		7	8	4	3	(2) 8	7	4	15	(2) 58
	60歳～	2	(1) 3	7	(1) 7	2	(1) 3	7	10	(1) 11	7	(4) 59
業種別	製造業	4	3	8	7	5	1	3	5	7	12	55
	建設業	4	(1) 2	3	4	4	2	(2) 10	(1) 6	4	3	(4) 42
	運送業		2	6	4	3	5	8	4	(1) 13	3	(1) 48
	警備業	1		2	3	1		3	1	5	3	19
	ゴルフ場		1	1	(1) 3	1		1	3	1		(1) 11
	その他	1	3	7	5	7	(1) 5	(1) 10	11	(2) 14	26	(4) 89
性別	男	8	(1) 8	24	(1) 20	17	(1) 11	(3) 26	(1) 16	(3) 34	34	(10) 198
	女	2	3	3	6	4	2	9	14	10	13	66

資料出所:労働者死傷病報告。()内は死亡者数で内数

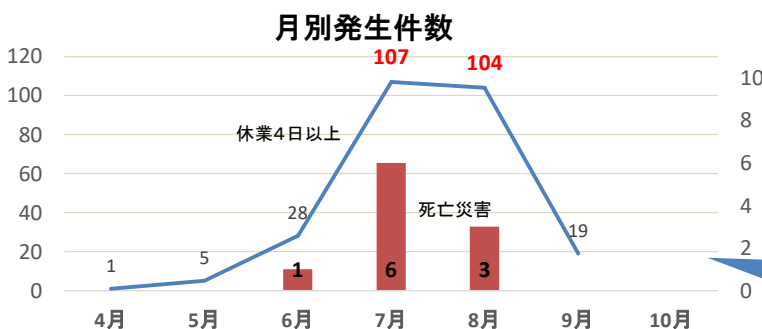
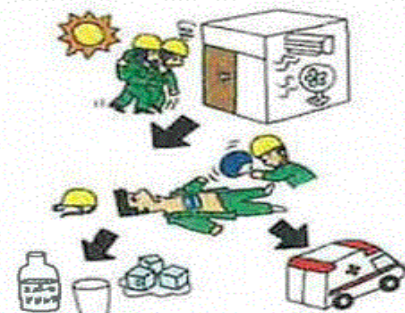
熱中症による発生件数の推移

職場での熱中症による死傷者数は、令和7年は過去最多の47人の発生となり、業種別では製造業、建設業、運送業及び警備業の4つの業種で約半数を占めています。死亡者数は過去10年間で10人となっており、死亡者が無かったのは令和2年以来です。

特に梅雨明け直後の暑さに慣れるまでの間は、十分に休憩を取りながら徐々に身体を慣らす熱への暑熱順化とともに、その後も暑さ指数(WBGT値)に応じて、作業の中断や短縮などにより熱中症を予防しましょう。



時間帯別では、午前中の作業開始直後と14～15時台にかけて多く発生しています。体調に異変を感じた人(または発見した人)は、安衝則に基づく対応をしましょう。
なお、日中の作業終了後、帰宅してから体調が悪化するケースも散見されますので、御留意ください。



月別では、7月と8月に集中して発生しています。特に7月の梅雨明け直後は、気温や湿度が上昇し熱中症が発生しやすくなります。